

## 海外に向けて英語のホームページを作りたいが...

インターネットの登場で、中小企業でもSOHOでも、グローバル市場をターゲットに仕事ができるようになったことは言うまでもありません。「日本語のホームページをそのまま英語に置き換えても通用しない」ということは、本シリーズの冒頭で書きましたが、「海外に向けて英語のホームページを作りたいが、どうしていいかわからない」という声がよく聞かれます。

そこで、英文サイトの作成および英語表現について説明していきたいと思いますが、その前にまずはドメイン名についてお話しします。

### ドメイン名は覚えやすいものに

#### <ドメイン名>

ウェブサイトを立ち上げる前に、まずそのアドレスであるドメインネームを取得しなければなりません。すでに日本語のサイトがある場合は、そのドメイン名を使い、英語ページを設けることもできますが、日本語サイトのドメイン名が日本的で日本語を話さない人にはわかりにくいものであれば、英語サイトは別途ドメインを取ったほうがいいでしょう。

覚えやすいものをドメイン名は会社名に限らず、ブランド名や製品名、サービス内容などでもいいですが、覚えやすいもの、印象に残るものにします。

アメリカの知人が始めたサイトは、ABC-XXXXX.netというドメイン名を取得しています。私はそのドメイン名をはっきり覚えていなかったために、ABCXXXXX.comと入力したところ、まったく別のサイトが現われました。

そこで、ABCXXXXX.netを入力すると、別の国にあるサイトが現われました。「そういえばハイフンが入っていたな」と思って、3度目でようやくABC-XXXXX.netにたどり着きました。私のようにURLをうろ覚えで、適当に入れてみる人は多いですから、うろ覚えでもちゃんと飛べるようにしたいものです。

また、「ドット・コム」という表現が定着しているように、netよりもcomが主流であり、接尾辞としてたいていcomを思い浮かべるので、できればcomのドメイン名を選んだほうがいいでしょう。

## 登録の前にちゃんとチェックをしよう

### <ドメイン名>

スペルの間違いのないようにドメイン名を登録する際には、スペルの間違いがないように気をつけましょう。日本のサイトでは、たとえば、library であるべきところが、libary になっているなど、l であるべきところが r になっていたり、v であるべきところが b になっているURLをよく見ます。そのほかにも、seminar を saminar とつづっていたり、learning を larning とつづっているものを実際に見たことがあります。

### 商標に抵触しないもの

ドメイン名による商標の抵触はアメリカでは問題になっており、いくつもの訴訟が起こされています。海外に発信する場合、日本の商標だけでなく、海外の商標に抵触しないかも調べるべきでしょう。アメリカの商標は、米国特許商標局のサイト（[www.uspto.gov/web/menu/tm.html](http://www.uspto.gov/web/menu/tm.html)）や、[www.mycorporation.com/trademarks/onlineearch.htm](http://www.mycorporation.com/trademarks/onlineearch.htm) など無料で検索できます。

### 競合の調査

競合会社がどのようなドメイン名を使っているか調べ、似たような名前は避けたほうがいいでしょう。

### 造語は注意

Amazon.com や Beyond.com などの造語は、ユニークであり商標登録をしやすいですが、名前を見ただけで何を提供する会社かがわかりません。知名度を上げるためのマーケティングに時間とコストがかかりますので、資金の限られたスモールビジネスでは、業務内容を反映したもののほうがよいでしょう。

### 複数の候補を考える

とくに com の場合、希望する名前がすでに取られている確率は非常に高いのです。「.com」がすでに取られていた場合、「.net」などほかの接尾辞を使うことが考えられます。日本的な商品売るのであれば、日本のドメインを表す「.co.jp」を使ったほうがいい場合もあるでしょう。com が一般的なアメリカでは、co.jp などの国を表わす接尾辞が付いているほうが「かわいい」という人もいます。

## ドメインが1つとは限らない

### <ドメイン名>

#### 複数のドメイン名を登録する

ドメイン名は複数取得し、どの URL を使っても、そのサイトにたどりつけるようにするとよいでしょう。

たとえば、B2B の業界別コミュニティ、バーティカルネットでは <http://www.verticalnet.com/>、<http://www.vertical.net/> のどちらでも、ワインを販売するワイン・コムでは <http://www.wine.com/> だけでなく、昔の名前の <http://www.virtualvineyard.com/>、<http://www.virtualvin.com/> でもサイトに行けるようにしています。

プールやスパ製品を販売するロングアイランドのパラマウントコーポレーションでは、アクセス数を増やすために、[poolandspa.com](http://www.poolandspa.com/)、[longislandhottubs.com](http://www.longislandhottubs.com/) など3つのドメイン名を利用しています。バーンズ&ノーブルのドメイン名は <http://www.barnesandnoble.com/> ですが、長いので <http://www.bn.com/> でも行けるようにしています。

#### ドメイン名の検索

登録前に、まず希望のドメイン名が使用可能かどうかを検索します。一番簡単なのは、ブラウザでその URL を入れてみてページが出るかどうかを確認することです。Under Construction (工事中) の表示が出れば、ドメイン名は登録されており、所有者がまだページを立ち上げていないということになります。

検索は、<http://www.networksolutions.com/> や <http://www.register.com/> などのドメイン名登録サイトや、ドメインなどのインターネットコーディネイト団体、InterNIC のサイト (<http://www.internic.net/>) など多くのサイトで可能です。

## ドメイン名の登録

一般には、ISPやレンタルサーバ業者が代行してドメイン名の登録や更新をしてくれますが、自分で行なう場合は、先に [InterNIC](#) のサイトで、ICANN (The Internet Corporation for Assigned Names and Numbers) に登録している公認ドメイン名登録業者のリストを社名、所在国、対応可能な言語名別に閲覧することができます。登録料金は、通常、2年で70ドル、その後、毎年更新時に35ドルです。

インターQが運営する [www.onamae.com](http://www.onamae.com) (Discount-Domain.com) を使えば、日本語でcom、net、orgのドメイン名の検索、登録ができます。登録料金は2年で7200円です。

co.jp に関しては、直接社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター (JPNIC) (<http://www.nic.ad.jp/>) で登録できますが、インターQ、[www.internic.net/regist.html](http://www.internic.net/regist.html)、<http://office.interq.or.jp/> などのサイトを利用することもできます。なおドメイン名は、すぐにウェブサイトを立ち上げない場合でも、登録して保管しておくことができます。

## ドメイン名の売買

希望するドメイン名がすでに登録済みであった場合、上記のサイトで検索すると、誰がそのドメイン名を所有しているを閲覧できますので、その人に直接連絡し、譲ってもらえるよう交渉することも可能です。ただし、価格は通常以上の価格を請求される可能性が高いでしょう。

また、ドメイン名の売買を仲介するサイトを使うという手もあります。DomainMart (<http://www.domainmart.com/>)、Register.com (<http://www.register.com/>)、GreatDomains.com (<http://www.greatdomains.com/>)、AfterNIC (<http://www.afternic.com/>) などでは、ドメイン名のオークション売買が行なわれています。ただし、価格は数千ドルまたはそれ以上にのぼり、数百万ドルというものもあります。